

テーマ 24

域内通貨等を用いた家庭向け脱炭素（卒FIT 電力可視化）施策の検証（袋井市）

1. 解決したい課題の内容

- ・2009年より、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーで発電した余剰電気を、電力会社が一定期間・固定価格で買い取ることを国が保証するFIT制度が継続されていたが、2019年11月から順次買い取り期間が終了（卒FIT）している。
- ・袋井市では、買い取り期間終了後も引き続き家庭での脱炭素化を推進していくため、蓄電池等対象機器購入のインセンティブとしての補助金交付や卒FIT電力のプレミアム買取（2024年7月から）を行っているが、現金給付のためこのお金が地域外に流出している可能性がある。
- ・また卒FIT電力の供給先は市内の教育施設となっており、各家庭から供給された電力量や貢献度（供給割合）などが把握できる仕組みがあれば、脱炭素のモチベーションの向上につながると考える。
- ・家庭における脱炭素と地域内経済循環の両立に向けて、地域内通貨（デジタル通貨）を活用した脱炭素推進の仕組みを構築したい。

2. 実現したい目標について

- ・各家庭において、卒FIT電力量を可視化することなどを通じて、脱炭素に向けたモチベーションが高まっている。
- ・売電先となる教育施設を各家庭側で指定することで、教育施設の活性化につながる。
- ・地域内通貨を活用することで、脱炭素効果だけでなく、地域経済の活性化につながる。

3. 必要とする技術について

以下を想定するが、これにこだわらない。

- ・卒FIT電力の売電量が見える化し、
- ・余剰電力の測定と売電した電力の供給先の指定ができるアプリ等の開発技術
- ・地域通貨の運用技術

4. 想定する実証実験（内容・希望時期等）について

※実証内容は以下を想定するが、これにこだわらない。

- ・市内公共施設をフィールドとして、提案技術を活用したアプリケーション等を実証協力者に試用してもらい、効果や使いやすさを検証する

5. 課題に関連する事業のホームページ URL

- ・袋井市「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」
https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/16/2/keikaku_hokoku/12414.html
- ・袋井市「太陽光発電設備のFIT買取期間満了に向けた対応について」

<https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp/soshiki/16/2/shinene/1560747193074.html>